

令和5年度「地域学校協働本部事業」 地域学校協働活動事業の取組事例

「南相馬市地域学校協働事業」の成果と課題(福島県南相馬市)

取組の概要や経緯

南相馬市では地域と学校がパートナーとして「連携・協働」し、地域ぐるみで子どもを育み、地域社会の活性化を図ることを目的に「地域学校協働活動事業」を令和4年度は市内3小学校、令和5年度には6小学校で実施するに至った。

内容

- 上真野小学校・太田小学校 「田んぼ体験活動」
地域住民やJAふくしま未来等の協力により、全校児童が年間を通して、「田植え体験」、「草刈作業」、「稲刈り体験」、「脱穀体験」等を行い、コメづくりの農業体験活動を実践した。
- 高平小学校 「学習支援活動・体験活動」
地域の退職教員が中心になり、約30人が「夏休み・冬休みこども教室」の学習支援活動や、「習字・書初め教室」、「森林学習・木工体験」等の体験活動を実施した。
- 大甕小学校「農業体験活動(さつまいもの苗植えから収穫)」
地域住民の協力のもと、「さつまいもの苗植えから収穫」を行い、農業体験活動を通して地域住民との世代間交流を実践した。
- 小高小学校・石神第一小学校 「放課後子ども教室事業」
地域の方々の参加と協力のもと、参加登録児童が文化・スポーツ、農業体験など、地域住民との交流活動等を月2回実施し、子どもたちの健全育成、居場所づくりを推進した。



ポイント

- 各小学校の学区を管轄する地区生涯学習センターが核となり、「地域学校協働本部」を設置。
- 地域と学校をつなぐ地域コーディネーターを中心とした地域ボランティアの参画により、地域行事や郷土学習、体験活動、学習支援など、地域の特性に即し地域に根ざした活動を実施している。

成果

- 地域が学校・子どもたちを応援・支援する一方向的な活動から、双方向の「連携・協働」型の活動へと転換を図ることができた。
- 地域に総合的なコーディネーターを配置し、地区生涯学習センターが地域学校協働本部機能を果たしながら、より緊密な学校や地域住民との連携により、地域の特性を活かした事業を展開することができた。

今後の方向性

- 本事業の基本的な考え方は、生涯学習センター所管区域を一つの単位として、地域学校協働本部を設置し、本部内の学校において事業を展開する。
- 今後、更に本事業内容の充実に努めながら、市内全学校への拡充を図る。